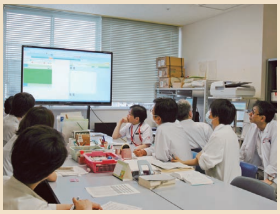
診療科紹介

- 診療科 医科部門
- 診療科 歯科部門
- 中央診療施設等
- 院内措置施設等
- 別府病院

内科（免疫・血液・代謝内科）

これまで別府病院内科が担当してきたリウマチ・膠原病、血液・腫瘍内科、循環器について内科に所属する専門医が一体となって診療と研究にあたります。早期診断、それに基づく標準的治療、そして最先端の治療からリハビリテーション、温泉療法にいたるまで、様々なオプションを備えた医療を提供します。

内科集合写真2023


症例検討カンファレンス

［得意分野］

■リウマチ・膠原病：当科では90年におよぶ診療と研究の伝統があり、地域の信頼も厚く関節リウマチをはじめ、たくさんの患者さんが来院しています。また、リハビリテーションにも力を入れ、温泉プールを備えたリハビリテーション施設は国内有数の設備です。

■血液疾患：白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液がんへ積極的に化学療法や放射線療法を行っています。また、免疫異常が原因の再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病の治療も行っています。

■がん・腫瘍：胃癌、大腸癌、膵臓癌、乳癌、肺癌、甲状腺癌など、固形腫瘍の化学療法や放射線療法を行っています。また、がんそのものや、がん治療による症状を和らげる緩和治療にも積極的に取り組んでいます。

［診療体制］

リウマチ、血液、がん薬物療法などの関連学会専門医・指導医が診療にあたっています。またリウマチ教室を開催し、患者さんに病気に関する正しい知識を提供するように、力を入れています。

［診療方針］

多彩な分野の専門医が一堂に会して診療を行い、幅広い視点から一人ひとりの患者さんを全人的に診療することを心がけています。リウマチ性疾患・膠原病の治療では、患者さんへの丁寧な説明と教育に力をいれて、患者さんと医師や医療スタッフが互いに協力して治療効果が上がるように努めています。また、すべてのスタッフが患者さんの精神的ケアにも細心の注意を払っています。

［対象疾患］

■膠原病：関節リウマチ、血管炎、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、多発性筋炎、皮膚筋炎／強皮症、リウマチ性多発筋痛症、ベーチェット病、成人スティル病、シェーグレン症候群など

■血液疾患：急性・慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、特発性血小板減少性紫斑病など

■がん・腫瘍：胃癌、大腸癌、膵臓癌、乳癌、肺癌、甲状腺癌など

［主な検査］

骨・関節X線検査、骨量測定、関節可動域検査、関節液検査、骨髄穿刺、骨髄生検、フローサイトメトリー、染色体検査、リンパ節生検

［主な治療］

■膠原病：抗サイトカイン療法、免疫抑制療法、ステロイド内服・点滴療法

■血液疾患：抗がん剤治療、免疫抑制療法

■がん・腫瘍：抗がん剤治療、放射線療法、症状緩和治療

内科（循環器・老年病内科）

これまで別府病院内科が担当してきたリウマチ・膠原病、血液・腫瘍内科、循環器について内科に所属する専門医が一体となって診療と研究にあたります。早期診断、それに基づく標準的治療、そして最先端の治療からリハビリテーション、温泉療法にいたるまで、様々なオプションを備えた医療を提供します。

内科集合写真2023

心臓カテーテル検査

［得意分野］

■循環器疾患（心臓・血管疾患）

■睡眠時無呼吸症候群

■これらの疾患のベースになる生活習慣病（高血圧・高脂血症）の診療も合わせて行います。

［診療体制］

外来診療は月曜日から金曜日まで毎日行っています。循環器専門医（1名）が担当しています。

［診療方針］

専門外来として、心不全外来、肺高血圧外来、睡眠時無呼吸外来を開設しています。生活の質（QOL）を落とさないことを目指して、循環器疾患に対して治療を行います。薬物治療に加えて、生活習慣指導とリハビリテーションを受けてもらえる体制を整えています。リハビリテーションでは、温泉治療を交えた、当院独自の理学療法を行って治療効果を上げています。原疾患の治療と再発予防によって、退院後も安心して健康に長生きできるようお手伝いすることが私たちの使命です。

［対象疾患］

■循環器疾患：狭心症・心筋梗塞、慢性心不全、心臓弁膜症、不整脈、肺高血圧症など

■血管疾患：閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症

■睡眠時無呼吸症候群

［主な検査］

心臓超音波検査（心臓エコー）、運動負荷心電図、血圧脈波検査、24時間心電図、胸部CT、頭部CT、頭部MRI、脊髄MRI、心臓カテーテル（冠動脈造影検査、心血管造影検査）、アプノモニタ、睡眠ポリソムノグラフィ検査

［主な治療・高度先進医療］

■薬剤治療、経皮的冠動脈形成術（風船・ステント治療）、ペースメーカ植込術、リハビリテーション（心臓、運動器）、持続陽圧呼吸療法（CPAP）など。

外科

1931年九州大学温泉治療学研究所開所以来、別府地区における九州大学病院外科として役割を担ってきました。消化器癌・乳癌を中心に、地元の先輩医師、九州大学本院と緊密に連携し、大学としての先鋭的な医療を推進しています。

科長　三森功士

肝切除手術の実際

[得意分野]

■腹腔鏡による胃癌・大腸癌・肝臓癌に対する徹底的な低侵襲手術
■肝胆膵領域がんなどの、高度技能を要する外科手術
■ERCP等含む内視鏡的治療
■乳癌に対する集学的治療と乳房再建術
■高齢者特有の疾患（食道裂孔ヘルニア、直腸脱など）に対する腹腔鏡下手術
■その他消化器内科的腹部疾患

[診療体制]

外科専門医7名（内指導医3名）、消化器外科専門医5名、日本内視鏡外科学会技術認定医2名、乳腺専門医1名が専門的な治療にあたっています。

[診療方針]

早期から終末期までがん診療に特化した科で、根治性を担保しつつ「徹底的な低侵襲」治療を目指します。一方、高度進行がんに対しても基本的に「最後まで根治性をあきらめない」診療をしています。また大学の病院として最新知識や技術を市民に還元し、役立てていただくことを心がけています。とくに肝臓癌に対して鏡視下で肝切除術を実施することが可能な施設となりました。また急性腹症に対しても対応可能となりました。

[対象疾患]

消化管外科（胃癌、大腸癌、消化管間葉系腫瘍（GIST）、消化管穿孔など）、乳癌、肝・胆・膵外科（原発性・転移性肝臓癌、胆管癌、胆のう癌、膵臓癌など）、その他一般外科、高度（末期）進行がん

[主な治療法・高度先進医療]

■消化管、肝・胆・膵、乳腺の悪性腫瘍に対する手術
■最新機器による放射線照射療法（放射線科）、最新の分子標的療法、化学療法
■低侵襲治療（腹腔鏡下手術、肝臓癌に対するラジオ波焼灼術）
■高齢者に対する負担の少ない低侵襲手術

[学会施設認定]

日本外科学会（指定関連施設）、日本消化器外科学会、日本乳癌学会（認定研修施設）、日本臨床腫瘍学会

整形外科（脊椎脊髄）

2011年4月から九州大学病院別府病院に“脊椎外科”を専門とした整形外科が開設されました。九州大学病院整形外科とその関連病院で脊椎の専門診療に携わってきた医師が、脊椎疾患全般に対してさまざまな治療を行います。

科長　播广谷勝三

腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術

[得意分野]

整形外科が診療する病気の中でも、“脊椎外科”はその技術の進歩が著しく、より専門的な知識や技術を必要とします。坐骨神経痛の原因（腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニア）に対する内視鏡手術・顕微鏡手術や脊柱側わん症に対する矯正固定術、圧迫骨折に対するセメントを用いた経皮的椎体形成術などの低侵襲手術や、最新手術を行っています。

[診療体制]

整形外科医5名が専門的な治療にあたります（日本整形外科学会専門医4名、日本脊椎脊髄病学会・脊椎脊髄外科指導医2名）。

[診療方針]

病状は患者さんによってそれぞれ異なります。手術的治療ばかりではなく、薬物治療、リハビリテーションを含めた保存的治療を、最新・最高の技術・知識に基づいて考え、十分な説明と同意のもとに行うよう心がけています。

[対象疾患]

■頸椎椎間板ヘルニア
■リウマチ頸椎（環軸関節脱臼など）
■頸椎症（頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症）
■脊柱靭帯骨化症
■脊椎圧迫骨折
■腰椎椎間板ヘルニア
■腰部脊柱管狭窄症
■骨粗しょう症
■脊柱側わん症、脊柱後わん症
■脊椎・脊髄腫瘍など

[主な検査]

X線、CT、MRI、脊髄造影、血管造影など

[主な治療]

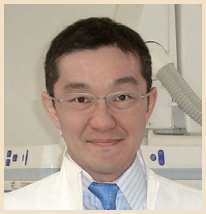
■内視鏡手術（椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症など）
■脊椎固定術
■側方進入推体間固定術による低侵襲手術
■脊柱側わん症に対する矯正固定術
■圧迫骨折に対するセメントを用いた経皮的椎体形成術
■腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板酵素注入療法

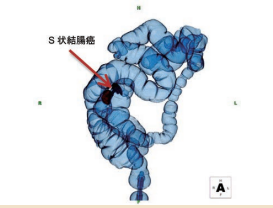
[学会施設認定]

日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会

放射線科

放射線科の担当領域として、院内各科と院外医療機関からの依頼による画像診断、さまざまな悪性腫瘍に対する高精度放射線治療、消化器（食道・胃・大腸）に対する内視鏡的治療、肝臓・胆のう・膵臓、脾臓・門脈に対する画像下治療を行っています。


科長　平川雅和



CTコロノグラフィー仮想注腸画像によるS状結腸癌

［得意分野］
各種画像診断装置と高精度放射線治療装置を導入し、主にさまざまな悪性腫瘍を対象に、画像診断、放射線治療、内視鏡的治療、画像下治療（血管内治療など）に幅広く取り組んでいます。前立腺癌に対する画像誘導放射線治療などの高精度治療（IMRT）を開始し、すでに100名以上の患者さんを、豊富な湯量に恵まれた温泉を備える別府の素晴らしい療養環境で治療しています。低侵襲の大腸検査として注目されているCTコロノグラフィにより、大腸癌などの詳細な病変評価や体動不良な患者さんの消化管検査にも対応しています。

［診療体制］
日本専門医機構放射線科専門医1名、日本医学放射線学会放射線科専門医3名（診断専門医2名、治療専門医1名）、日本IVR学会専門医1名、第一種放射線取扱主任者免状を2名、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医1名がもち、専門的な放射線診療にあたっています。

［診療方針］
可能な限り、低侵襲な画像診断と治療が提供できるように、各専門医が診療にあたります。さらに、院内の各科の専門医師とも緊密に連携をとりながら、診療に取り組んでいます。

［対象疾患］
各種悪性腫瘍など

［主な検査］
320列マルチディテクタCT検査、1.5 TMRI検査、血管造影検査、消化管造影検査、内視鏡検査、CTを用いた仮想内視鏡検査

［主な治療］
- ■各種悪性腫瘍に対する高精度放射線治療（強度変調放射線治療・画像誘導放射線治療・体幹部定位放射線治療法）
- ■消化管悪性腫瘍に対する内視鏡的治療（EMR、ESD）
- ■肝臓・胆のう・膵臓や血管狭窄病変に対する、画像介入下低侵襲治療（IVR:経皮的治療・血管内治療）

［学会施設認定］
日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関　画像診断、IVR、放射線治療部門

麻酔科

麻酔科の主な診療内容は、手術時の麻酔管理です。手術を受ける際には痛みを取ると同時に呼吸、循環、代謝など、手術時に刻々と変化する生体反応を制御する必要があります。生体の機能をコントロールし、患者さんの安全を確保するのが麻酔科医の役割です。

科長　山浦　健

手術時の麻酔管理

［得意分野］
麻酔科の主な診療内容は、麻酔が必要な手術、検査実施時の安全管理です。加えて重症な患者さんの循環、呼吸、代謝を含む全身管理を援助しています。

［診療体制］
現在、麻酔科医2名（麻酔科専門医1名、医員1名）で、別府病院で行われる年間600件以上の手術を担当しています。外科、整形外科の手術治療時に、麻酔科専門医の管理下に麻酔管理を行っています。手術前日までに患者さんを訪問し、麻酔科術前診察を実施します。

［診療方針］
安全で最適な麻酔管理を実施するために、術前に患者さんを訪問し、麻酔科術前診察を実施します。その際に、手術内容や患者さんの情報を基に、症例に合った麻酔方法、全身管理を説明し、患者さんの納得の上で術後の痛みが少ない方法を選択しています。術後の疼痛管理は、担当診療科医師、看護師と協力して実施します。

［対象疾患］
当科が麻酔を担当する対象疾患は、手術治療を必要とする全疾患に及びます。小手術の場合は担当科で局所麻酔をして手術をすることもあります。

［主な検査］
麻酔管理に必要な検査（血液検査、心電図検査、呼吸機能検査、単純写真など）は、入院前後に担当診療科が実施します。さらに手術前に麻酔科医が診察し、必要に応じて動脈血検査、心エコー検査などの検査も加えます。手術中、麻酔科医は学会の勧告するモニター指針に従って、患者さんのバイタルサインを看視します。必要に応じて観血的動脈圧、中心静脈圧モニターなども加えます。

［主な治療］
別府病院で行われる手術の麻酔管理を行います。

［学会施設認定］
麻酔科認定病院（日本麻酔科学会）

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、さまざまな疾患によって低下した身体機能を、個々の患者さんがその人らしく生活できるよう回復を促し、自立した社会生活機能を最大限に向上させるようリハビリテーションを行っています。

科長　播广谷勝三

理学療法士による温水プールでの運動指導

[得意分野]

2011年に新設された整形外科では脊椎・脊髄疾患に特化した診療を行い、当科では手術前後の運動器リハビリテーションを行っています。また、当院の内科の特徴である関節リウマチや膠原病、血液疾患のほか、パーキンソン病、心疾患、脳血管障害、高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患、悪性腫瘍を対象とした「がんのリハビリテーション」も行っています。

[診療体制]

医師2名と理学療法士4名、作業療法士1名、技能補佐員1名で診療にあたっています。

[診療方針]

専任医師の指示の下で、さまざまな疾患から生じた機能的および社会的な障害を把握し、インフォームド・コンセントを行った上で、個々の患者さんのニーズに合ったリハビリテーションを提供することを基本方針としています。

[対象疾患]

■脊椎脊髄疾患(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など)
■関節リウマチ、膠原病
■血液疾患
■パーキンソン病
■脳血管障害
■心疾患
■高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患
■悪性腫瘍(がんのリハビリテーション)など

[主な治療]

疼痛の訴えや身体的・社会的障害に対し、患者さんのニーズに合わせ、徒手療法や物理療法、温泉(水治)療法、作業療法、理学療法、ADL指導などを行い、早期回復・社会復帰の手助けをします。

[設備と特色]

通常のリハビリテーション室に加えて、温泉湧出量日本一の、地域の特徴を活かした温泉運動プール(9.5m×4.8m×1.1m)、温泉鉱泥浴(泥湯)などの、温泉リハビリテーション施設を備えています。温泉プールでは、理学療法士がプールに入って運動指導を行うこともあります。また、温泉療法と徒手療法を組み合わせたリハビリテーションも特徴のひとつです。そのほかに「がんのリハビリテーション」や患者さん向けの糖尿病教室・リウマチ教室も行っています。さらに、施設敷地内には大森林があり、自然遊歩行コースを設けて市民の方々にも開放しています。

[教育]

学生教育では、理学療法士や作業療法士養成校から、数名の臨床実習生を受け入れています。

看護室

心のこもったケアと安全で安心な医療の提供を行うために、患者さんを中心としたチーム医療を推進し、多職種間で認め合い必要とされる看護を目指しています。

新人教育（プリセプター制度）

［運営体制］
内科、外科、整形外科を中心とした3病棟と外来、手術室の5つの看護単位において、看護師長3名、副看護師長9名と看護師、看護助手の計85名の看護職員が看護を行っています。医療安全や感染対策など7つの看護室委員会、がん看護、NSTなど9の看護WGを運営しています。

［理念］
私たちは、人間性を尊重し、患者さんに信頼される質の高い看護を提供します。基本方針として、九州大学病院本院の方針に倣い、看護の質の向上と人材育成、自己啓発・研鑽の促進、業務改善と活気ある職場づくり、地域医療連携の推進、接遇の向上などを目標にしています。

［特色］
1. 7:1看護体制とPNS（パートナーシップナーシング・システム）による、質の高い看護の提供に努めています。
2. 近隣2教育機関の看護学生実習を受託し、後輩育成に積極的にかかわっています。
3. 新人看護師の受け入れにはプリセプターナースを設定し、他にもさまざまな役割を担う教育体制を整備しています。

［教育］
1. クリニカルラダー別研修に準じた、Ⅰ-Ⅲまでの教育研修を実施しています。
2. 大分県看護協会の企画研修会やその他の研修などへ積極的に参加を推進しています。
3. 業務改善報告会、看護研究発表会を実施し、看護学会などへの発表を目指した看護研究にも取り組んでいます。

薬剤室

薬剤室は患者さんに適正かつ安全に医薬品を調剤・調製して供給しています。また、正確な医薬品情報を患者さんや医療スタッフに提供しています。

注射薬無菌調製室

［運営方針］
薬剤室は外来患者・入院患者さんに、医師の発行する処方箋・注射請求箋に基づき、相互作用、配合変化、使用上の注意、保管場所などをチェックし、より安全かつより効果的に薬物療法ができるように専門性を発揮し、薬学的援助と薬剤によるリスク管理に積極的に関与しています。とくに、入院患者さんへの服薬指導、注射薬無菌調製業務を行うことで、副作用モニタリング、薬剤の適正使用などのリスクマネージャとしての役割を担っています。

［業務内容］
調剤業務、無菌調製業務、薬剤管理指導業務、医薬品の採用に関する業務、医薬品の管理業務、製剤業務、医薬品安全管理業務などを行っています。また、がん専門薬剤師による薬剤師外来を開設して、安全かつ最適ながん化学療法が行われるよう努めています。その他、総合栄養支援チーム(NST)、糖尿病教室、リウマチ教室などの院内活動にも積極的に参加しています。

［設備］
■調剤支援システム：散剤集塵機能付散薬台、全自動式錠剤分包機、散剤鑑査システム付散剤分包機（電子カルテ対応）、自動薬袋印字装置等
■注射管理システム：安全キャビネット（抗がん剤調製用）、クリーンベンチ（TPN調製用）

［特色］
■調剤業務はもとより、服薬指導業務・注射薬無菌調製業務（抗がん剤、TPN）などの質の高い薬剤業務を、患者さんのことを第一に考えて提供しています。また、地域の調剤薬局と連携することで、アドヒアランスの把握、副作用の早期発見等、抗がん剤治療での不安の解消に貢献しています。

慢性疾患診療部

病気によって低下した身体機能を、患者さんがその人らしく生活できるよう回復させ、さらに自立した社会生活機能を最大限に向上させる、急性期から慢性期にわたるリハビリテーションを行います。

［運営体制］
慢性疾患診療部長1名、診療講師1名、理学療法士5名、作業療法士1名、技能補佐員1名で構成。

［運営方針］
障がいに対し、身体の良い面に着目して、潜在する機能を最大限に引き出し、「その人が、再びその人らしくなるように」患者さんを主体としたリハビリを基本方針においています。

［業務内容］
脊椎外科疾患、関節リウマチや膠原病、血液疾患、パーキンソン病、心疾患、脳血管障害、高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患、悪性腫瘍、線維筋痛症などのリハビリテーションを中心に行っています。

［設備］
リハビリテーション室のほかに、温泉運動プール（9.5m×4.8m×1.1m）、鉱泥浴などの、温泉施設を備えています。

［特色］
理学療法、作業療法に加え、温泉プール治療、鉱泥浴などの物理的刺激の特性を組み合わせたリハビリを行っています。また「がんのリハビリテーション」も行っています。

［教育］
学生教育では理学療法士、作業療法士養成校から、数名の臨床実習生を受け入れています。

検査室

1977年10月に設置された検査室では、別府病院の臨床検査（血液検体検査、細菌検査、生理検査、病理検査、輸血検査など）を行っています。

血液像鏡検法の様子

［運営体制］
検査室長、病理医、臨床検査技師7名の体制で日々の臨床検査を行っています。時間外緊急検査は、オンコールによる24時間体制で対応しています。

［運営方針］
検体検査の院内検査実施項目は、すべて迅速報告を実施し、外来診療の質向上に貢献しています。また、NSTやICTなどの院内活動や委員会にも参加し、重要な役割を果たしています。

［業務内容］
5つの検査室で、検体検査（生化学、血液、免疫血清）、生理検査、病理・細胞診検査、細菌検査、輸血検査、一般検査などの診療に不可欠な臨床検査の業務を行っています。

［設備］
生化学汎用自動分析装置、多項目自動血球分析装置、全自動血液凝固測定装置、血液ガス分析装置、自動血液培養検査装置、自動密閉式自動固定包埋装置、自動免疫染色装置、超音波診断装置など

［特色］
新しい検査法の導入にも積極的に取り組み、また各診療科が行う研究活動等への支援も行っています。

［教育］
毎年、臨床検査技師養成学校から学生実習を受け入れて、これからを担う臨床検査技師の育成も行っています。

手術室

外科的治療のうち、手術治療を行う施設です。

手術時の麻酔管理

[運営方針]
安全で円滑な手術治療が行える環境を整備することが基本です。そのため計画に基づいた手術時の麻酔管理、患者看護、手術介助、手術室の環境維持、手術機器・衛生材料の管理などを行っています。

[業務内容]
麻酔科医による周術期麻酔管理では、手術前診察、手術時全身管理、診療科主治医と協力した手術後の鎮痛管理を行います。また、手術室専任看護師による手術前後の患者訪問、手術看護、手術介助を行います。手術室の管理は麻酔科医を中心に、看護スタッフ、診療科医師を含めて行います。

[特色]
安全な手術を実施するために手術室の生体情報は、手術管理室のセントラルモニタで情報管理を行っています。3手術室のうち1室は無菌手術室で、高度な衛生状態での手術治療が可能です。新しい手術法や腹腔鏡手術も積極的に取り入れ、安心安全な医療の提供に努めています。

診療放射線室

集学的診療に対応するため、質の高い放射線診療を提供できるよう努めています。

CT撮影装置

[運営体制]
放射線科医師4名、診療放射線技師6名、事務職員1名で構成しています。

[運営方針]
医療目的にあった最良の放射線診療(診断・治療)を提供し、患者さんと医療従事者の放射線被ばくをできるだけ低減し、安心して放射線診療が受けられるように環境保全に努めています。

[業務内容]
■画像診断:一般X線撮影、乳房撮影、X線透視検査、X線CT検査、MRI検査、心臓・血管造影検査、骨塩定量検査
■IVR治療:塞栓療法、動注療法、リザーバ留置、各種血管内治療
■放射線治療:各種悪性腫瘍に対する放射線治療(外照射)、体幹部定位放射線治療(SBRT)、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)

[設備]
一般X線撮影装置、乳房撮影装置、X線透視撮影装置、骨塩定量装置、移動型X線撮影装置、X線CT装置、MRI装置、心臓・血管撮影装置、放射線治療装置(リニアック)

[特色]
2020年2月から最新の320列マルチスライスCT装置を導入し、低被ばく化、高速化、高画質化を図りました。その他集学的な診療を行うため、さまざまな診断装置、治療装置を揃え、診断から治療まで満足のいく高品質な医療の提供を目指します。

中央材料室

中央材料室は、安全な医療器材の提供に努め、洗浄・組み立て・滅菌全般を行っています。

プラズマ滅菌器

[運営方針]
■医療器材の洗浄・滅菌を一括管理し、滅菌の質を保証し、安全な医療材料の提供を行う
■医療器材の効率的運用を図り、病院経費の節減に努める

[業務内容]
■診療上必要とする医療器材の洗浄・滅菌を一元的に行っています。各病棟・外来・内視鏡室・手術室の使用済み器材の回収・洗浄・組み立て・点検を行い、器材に合った滅菌の実施・器材の保管・供給を施行しています。
■安全で効率的な医療材料が提供されるよう、中央材料室が主体となって各部署で必要な医療器材を算出し、定数配置を実施しています。
■使用する洗浄装置や滅菌装置は、日常点検・法定保守点検を施行し、定期的に点検整備を実施しています。

[設備]
■オートクレーブ滅菌器2台、プラズマ滅菌器1台、ウォッシャーディスインフェクター1台、減圧沸騰式洗浄機1台

メディカル・インフォメーションセンター分室

診断と治療の精密化を図る目的で導入した病院情報システムと、病院情報ネットワークシステムの維持管理を行っています。

病院情報システムサーバー

[運営体制]
メディカル・インフォメーションセンター(以下MICと略す)分室長、技術職員、技術補佐員の3名で業務を担当し、運営は各部署代表者で構成されるMIC分室運営委員会でシステムのトラブル防止や問題点を討議しています。

[運営方針]
各部門と連携を行い、病院情報システムの利便性の向上と病院情報システムの安全な運用に最善を心がけています。

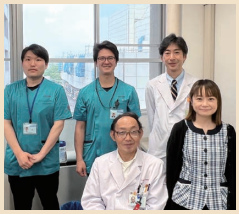
[業務内容]
病院情報システムにより、各部門の連携がスムーズに行えるよう支援することがMIC分室の主な業務です。

[特色]
2019年に病院情報システムを更新しており、診療情報の一元化、迅速な情報共有による医療の質向上に努めています。

[教育]
新規採用者には病院情報システム利用開始前にセキュリティ講習、病院情報システムの操作講習を行った後にパスワードを発行しています。

地域医療連携室

地域医療連携室は患者さんが地域で一貫性のある治療を受けられるよう地域医療連携を強化し、地域医療の質の向上に貢献することを目指しています。


地域医療連携室

[運営体制]
社会福祉士(MSW:医療ソーシャルワーカー)2名、看護師1名、事務職員2名で業務を遂行しています。

[業務内容]
■医療連携業務
地域の医療機関からの紹介患者さんの受け付けや、紹介元医療機関への返書管理、外来受診・入院報告をはじめ、入退院管理業務を行い、効率的な病床稼働に努めています。
■入院調整業務
毎日、入退院小委員会を開催し、入院患者さんのスムーズな受け入れを図るため、各病棟看護師長と協同し、連絡調整を行っています。
■在宅療養支援、退院・転院支援業務
退院後、地域で医療・介護サービスなどを利用する患者さんに対し、地域医療機関、訪問看護ステーション、介護施設などとの有機的な連携を図り、切れ目のないサービスの活用が行えるよう支援を展開しています。

[特色]
地域医療連携室が患者さんと地域医療機関との“かけはし”となれるよう、社会福祉士を中心に多様な医療・福祉相談に応じています。

診療録管理室

診療録管理室では、電子カルテ導入以前の紙カルテ、電子カルテ、同意書などの文書の管理を行っています。

診療録管理室

[運営方針]
診療録を適切に保管、管理します。また、記録の監査を行い、診療録の精度向上を目指します。

[業務内容]
■診療録の監査業務
診療情報のすべてが記載される診療録は、診療報酬請求の根拠となるため、診療録に記載すべき内容が正確に記載されているかを監査しています。
■DPC調査提出業務
DPC調査提出データを作成し、厚生労働省に提出しています。
■文書の電子化業務、CD画像の取込業務
診療で発生する同意書などの院内文書や他院からの診療情報提供書を電子化し、電子データを原本として管理しています。また、患者さんが持参したCD画像を電子カルテへの取り込みを行っています。
■全国がん登録提出業務
全国がん登録届出書の提出を行っています。
■紙カルテの貸出業務
電子カルテ導入以前の診療録を管理し、診療などで使用する際の貸出業務を行っています。

栄養管理室

適切な栄養療法の実施、栄養に関する教育、情報の発信などを行っています。

栄養指導風景

[運営体制]
栄養管理部門と給食管理部門の2部門で構成されています。
■栄養管理部門は入院患者さんの栄養管理と、入院・外来患者さんの食事指導を行っています。
■給食管理部門は委託給食を行い、栄養管理部門と連携し、個人の病態や状態に合わせた、より質の高い食事の提供を行っています。

[運営方針]
「病院食は『あくまでも食事』『さりげなく治療食』としての心配りを!」を理念に掲げ、患者さんに安心しておいしく食べてもらえる治療食の提供を行っています。
■栄養治療に関する知識や調理技術の向上、相手のことを想像できる感性を磨くなど、つねに自己研鑽しています。

[業務内容]
■個人の病態や状態に合わせた食事の提供(210食/日)
■総合栄養支援チーム(NST)の運営
■外来ならびに入院患者さんへの食事療法の説明、指導

[特色]
■各科において毎週1回、合同カンファレンスを行い、他職種と連携したチーム医療を行っています。
■患者さんと栄養士、双方の顔が見える栄養管理
■電算化による業務の効率化と調理器具の電化による徹底した衛生管理

[教育]
■各地の栄養士養成施設(大学や短期大学)からの臨床実習生の受け入れ
■地域大学の臨床栄養についての講義に、講師を派遣

事務室

事務室では、患者さんの受診に関する業務、医薬品などの購入、教職員に関すること、経理に関すること、建物の維持管理に関することなどさまざまな事務処理などを行っています。

事務受付

[庶務・人事系業務]
会議などの庶務事務、教職員の人事・労務管理・福利厚生、法規や労働安全衛生、別府病院執行部の運営方針の執行に係る事務処理などを行っています。

[経理系業務]
適正な病院運営を行うための予算管理、経営分析などのほか、給与などの支払い、共済組合などの事務も行っています。

[用度・施設系業務]
医薬品、医療材料や研究用品の購入・管理、契約、入札、建物などの維持管理などに関する業務を行っています。

[医事系業務]
患者さんの外来受付と入退院に関すること、保険給付に係る請求業務、諸料金の収納その他、患者サービスに関する業務を行っています。